

薬

Art gallery

第二
展示室

吸い取り紙



左端が「インキ消し」、右端が「プロッター」

時代を感じさせます。医療用医薬品ばかりでなく、売薬の広告もあり、中には今も使われている薬もあります。

薬に関する「吸い取り紙」には、前号で紹介したマチ子と同様に様々な広告、宣伝文句がその裏面に書かれています。現代の視点から見てもデザイン的に、また配色的にも優れ、それぞれの

吸い取り紙です。万年筆で書いた文字は乾かないうちは流れたり裏写りすることがあるので、それを防ぐためにインクが乾く前に吸水性のよい紙を押しあてインクの水分を吸い取らせた。それが「吸い取り紙」です。インキ消し同様、現在も売られており、「吸い取り紙」を巻き付け押し当てるための「プロッター」という専用の道具もあります。

そしてもう一つの万年筆の補助文房具が今回紹介する「インキ消し」は現在も販売されていますが、その昔の代表的インキ消しは現代では人種差別用語といえる「クロノ印インキ消し」という商品名でした。1液と2液があり、プールの消毒薬、塩素のような臭いがしました。

化学反応を応用して書き損じた文字を消すための修正液です。万年筆の補助文房具として「インキ消し」がありました。インキ消しは現在も販売されていますが、その昔の代表的インキ消しは現代では人種差別用語といえる「クロノ印インキ消し」という商品名でした。1液と2液があり、プールの消毒薬、塩素のような臭いがしました。

今回は「吸い取り紙」を取り上げてみます。「吸い取り紙」といっても万年筆をほとんど使ったことのない若い世代の人達には何のことか分からないと思いますが、パソコンがなかった時代の筆記用具といえば「鉛筆」が主流でした。小学生からさらに上級に進学したり、就職して社会に出る際のお祝いとして万年筆が贈られました。とくに「モンブラン」や「パーカー」といった外国製ブランドの高級万年筆を持つことは一種のあこがれでもあり、出世の証し(あかし)、ステータスシンボルのな意味合いもありました。

医療用医薬品

売薬